

平成27年度版「みんなとまなぶ しょうがっこう こくご」一年 年間指導計画作成資料

【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。
例（書①読①）…書くこと1時間，読むこと1時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしている。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関心】…国語への関心・意欲・態度

【話聞】…話すこと・聞くこと

【書く】…書くこと

【読む】…読むこと

【伝国】…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成27年度版「みんなとまなぶ しょうがっこう こくご」一年上巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	3	<p>ことばともだち 「あいさつしよう」 (話聞②言①) ■その場に合ったあいさつを、はっきりとした発音で言うことができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ○話聞(2)ウ：場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をしっかりとすること。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>①絵をみて、いろいろな場面でのあいさつの言葉と言葉遣いについて話し合い、あいさつの役割について考える。 ②あいさつの言葉を、はっきりとした声で言い合う。</p>	<p>【関心】あいさつに対する関心をもち、言葉を適切に使うとしている。 【話聞】声の大きさや速さなどに注意し、はっきりとした発音で、丁寧な言葉を使ってあいさつをしている。 【伝国】あいさつの役割について気付いている。</p>
	1	<p>「おなまえおしえて」 (話聞①) ■友達に名前を聞いたり、自分の名前を言ったりすることができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①友達の名前を聞いたり、自分の名前を答えたりするための基本的な話型をとらえる。 ②友達と名前を教え合う。</p>	<p>【関心】友達の名前に関心をもち、進んで聞いたり答えたりしようとしている。 【話聞】自分の名前が伝わるよう、しっかりと声で丁寧に話している。 【話聞】友達の名前を聞き落とさないようにしながら聞いている。 【伝国】言葉を通して伝え合っていることのよさに気付いている。</p>
	2	<p>「おはなしをきこう」 (話聞①読①) ■どんな人物が登場し、どうなったのかをとらえながら、本の読み聞かせを聞くことができる。</p> <p>◎話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(2)イ：物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①本の読み聞かせを聞く。 ②感想や話の内容、展開などを伝え合う。</p>	<p>【関心】登場人物の行動や場面展開について想像を広げながら、作品を楽しんで聞こうとしている。 【話聞】読み聞かせを、興味をもって聞いている。 【読む】読み聞かせを、想像を膨らませながら、楽しんで聞いている。 【伝国】言葉を通してお話を聞いていることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	3	<p>「こえのたいそう」 (話聞②言①) ■姿勢や口形、声の大きさなどに注意して、 母音を正しく発音することができる。</p> <p>◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①写真や絵を見て、姿勢や口形などに注意して、母音を正しく発音する。 ②場面に合わせて声の大きさを変えたり、切ったり伸ばしたりするなど、いろいろな言い方で母音を発音する。</p>	<p>【関心】声の体操に関心を持ち、正しく発音したり、いろいろな言い方をしたりしようとしている。 【話聞】姿勢や口形、場面に合わせた声の大きさなどに注意して、母音を正しく発音している。 【伝国】平仮名の母音を読んでいる。</p>
	2	<p>「となえうた」 (読②) ■リズムを楽しみながら、はっきりとした発音で、「あいうえおにのうた」を音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①リズムを楽しみながら、はっきりとした声で音読する。 ②語のまとまりや響きに気を付けながら音読したり、暗唱したりする。</p>	<p>【関心】「となえうた」に関心を持ち、楽しみながら音読しようとしている。 【読む】語のまとまりや響きに気を付けながら、楽しんで音読している。 【伝国】それぞれの言葉のまとまりの意味に気付いている。 【伝国】清音の平仮名を読んでいる。</p>
	3	<p>「えんぴつもって」 (言③) ■姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けながら、一画、二画、三画の平仮名を書くことができる。</p> <p>◎伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①写真などを基に、運筆に慣れるよう、姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて運筆練習をする。 ②指示された平仮名を書く。</p>	<p>【関心】姿勢や鉛筆の持ち方などに気を付けながら、平仮名を書こうとしている。 【伝国】平仮名を正しく読み書きしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	3	<p>「えからさがそう」 (話聞②言①) ■絵から、母音の付く言葉を探し、基本的な話型を使って、伝え合うことができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)ア：事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①絵から、母音の付くものの名前などの言葉を集める。 ②基本的な問答の話型を使って、母音の付く言葉を「一音節一文字」に気を付けながら聞き合う。 ③挿絵以外の母音の付く言葉を集め、伝え合う。</p>	<p>【関心】母音の付く言葉に関心をもち、集めたり伝え合ったりしようとしている。 【話聞】基本的な「問い」「答え」の話型を順序よく使って、母音の付く言葉をはっきりとした発音で話し、伝え合っている。 【伝国】音節と文字との関係や、言葉にはもの名前を表すものがあることをとらえている。 【伝国】敬体の話型に慣れようとしている。</p>
5	3	<p>「みつけてはなそう」 (話聞③) ■絵から見つけたことを話したり、友達に質問して答え合ったりすることができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)ア：事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①絵から見つけたことを話す。 ②絵から質問を考え、友達に答えてもらう。</p>	<p>【関心】絵に表れていることに関心をもち、そこから見つけたことを、伝え合おうとしている。 【話聞】絵から見つけたことを丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話したり、友達と聞き合ったりしている。 【伝国】物には名前があることに気付いている。 【伝国】敬体の話型に慣れようとしている。</p>
	2	<p>「ことばをつなげよう」 (言②) ■絵から見つけた言葉をつなげ、「□が□。」 「□を□。」の文を作ることができる。</p> <p>○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①絵から見つけた言葉をつなげて、「□が□。」の文を作る。 ②絵から見つけた言葉をつなげて、「□の□。」の文を作る。 ③日常の生活の中から言葉を見つけ、「□が□。」や「□を□。」の文を作る。</p>	<p>【関心】語と語の続き方に関心をもち、つながりのある文を作ろうとしている。 【伝国】文中の主語と述語の関係に注意している。 【伝国】言葉には、見た物や経験したことを伝える働きがあることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	1	「ひらがなひろば」 (言①) ■五十音表を縦横に読んで、表の仕組みをとらえることができる。 ■口形に注意し、はっきりと発音することができる。 ◎伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	①五十音表を基に、平仮名を行や段で読み、その仕組みをとらえる。 ②伸ばしたり、短く切ったりと、いろいろな言い方で発音することで、段が同一の母音であることに気付く。	【関心】平仮名五十音に関心を持ち、進んで発音したり、仕組みを見つけたりしようとしている。 【伝国】平仮名表を読むことで、その仕組みをとらえている。
	3	「しりとりめいろ」 (言②話聞①) ■語句を増やしたり、音節に対する意識をもったりすることができる。 ○話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。	①音節の数を確かめながら、例示のしりとり遊びをする。 ②テーマを決めて、しりとり遊びをする。	【関心】しりとり遊びに関心を持ち、楽しみながら言葉を集めたり、音節の数を確かめたりしようとしている。 【話聞】口形や声の速さなどに注意して、はっきりとした発音で話している。 【伝国】しりとり遊びを通して、言葉を集めたり、音節と文字の関係に気付いたりしている。
	5	おはなしをよみましょう 「いいものみつけた」 (読③言②) ■話の内容の大体を読み、語のまとまりに気を付けて音読することができる。 ■主語-述語の基本文型に慣れ、文を書くことができる。 ◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	①全文を読み、感想などを出し合う。 ②語のまとまりに気を付けながら音読する。 ③基本的な文型を知り、それを使って文を作る。 ④新出の平仮名を書く。	【関心】話のおもしろさに関心を持ち、楽しみながら読んだり、平仮名を書いたりしようとしている。 【読む】場面の様子や人物の行動について読んでいる。 【伝国】整った主述や、語と語のつながりに気を付けながら文を作っている。 【伝国】語句のまとまりや敬体の表現に気付いている。
	2	「にているじ」 (言②) ■形の似た平仮名を識別したり、運筆に気を付けながら平仮名を書いたりすることができる。 ◎伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	①形の似た平仮名を、どこが似ているか考えながら区別する。 ②運筆に気を付けながら、読んだり書いたりする。	【関心】平仮名の形に関心を持ち、どこが似ているかを考えながら、識別しようとしている。 【伝国】平仮名を正しく読んだり、形や運筆に気を付けながら書いたりしている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	3	<p>「ゝ やゝ のつくじ」 (言②読①) ■語のまとまりに気を付けながら、詩を音読することができる。 ■運筆に気を付けながら、濁音や半濁音・撥音の平仮名を書いたり、読んだりすることができる。</p> <p>○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国ウ(ア):平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①濁音や半濁音・撥音が出てくる詩を音読する。 ②濁音や半濁音を含む言葉を集める。 ③運筆に気を付けながら、濁音や半濁音・撥音を含む言葉を書く。</p>	<p>【関心】濁音や半濁音・撥音を含む言葉に関心をもち、読んだり書いたりしようとしている。 【読む】言葉のまとまりに気を付けながら、濁音・半濁音・撥音の含まれた詩を音読している。 【伝国】濁音や半濁音・撥音の平仮名を正しく読み書きしている。</p>
	3	<p>「ともだちとはなしましょう」 (話聞②言①) ■相手に分かるように、主述を整えて話すことができる。 ■友達の話をしっかり聞いて、答えることができる。</p> <p>◎話聞(1)ア:身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 ◎話聞(1)イ:相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)ウ:姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ:大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ◎話聞(1)オ:互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)イ:尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。 ○話聞(2)エ:知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①友達に聞きたいことや自分のことで知らせたいことを選び、話したり聞いたりする。 ②友達と話をし、良かったことなどを出し合う。</p>	<p>【関心】友達と伝え合うことに関心をもち、進んで話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】身近なことや経験したことなどの話題に合わせて、必要なことははっきりと丁寧に話したり、大事なことを落とさずに集中して聞いたりしている。 【伝国】相手に自分の意図が伝わるよう、主述の関係に注意して話している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	2	<p>「つまるおん」 (言②) ■促音を含む詩や言葉の読み書きをすることができる。</p> <p>○伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 ◎伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、 「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①語のまとまりや調子に気を付けながら、促音を含んだ言葉が出てくる詩を音読する。 ②拍を確かめながら、促音を含んだ言葉を読む。 ③書き方を確かめ、促音を含んだ言葉を書く。 ④言葉集めをし、紹介し合う。</p>	<p>【関心】促音に関心をもち、拍を確かめながら読んだり、正しく書いたり、言葉集めをしたりしようとしている。 【伝国】促音を含む平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気付いている。</p>
	3	<p>えをみておはなしをしましょう 「まてまてかえるくん」 (読②話聞①) ■続き絵を見て、場面ごとに想像し、一連の話をしたり、聞いたりすることができる。</p> <p>○話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①絵を見て、人物の様子や行動、それぞれの絵の関連や変化などをとらえる。 ②場面ごとに、想像したことを話したり、聞いたりする。 ③場面ごとの話を続けて一連の話にし、話したり聞いたりする。</p>	<p>【関心】四場面から成る続き絵に関心をもち、お話にして話したり、友達の話の聞いたりしようとしている。 【話聞】口形、声の大きさなどに気を付けて話している。また、友達の話に集中して聞いている。 【読む】四つの場面の絵それぞれから想像したお話を、分かりやすく話したり、時間の順序を意識しながら一連の話としてつなげたりしている。 【読む】続き絵に描かれた人物の様子や行動、場面の関連や変化などを読んでいる。 【伝国】想像したお話を伝えながら、言葉の働きに気付いている。</p>
6	2	<p>「のぼすおん」 (話聞①言①) ■長音を含む詩や言葉の読み書きをすることができる。</p> <p>◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 ◎伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、 「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①長音を含んだ言葉が出てくる詩を音読する。 ②拍を確かめながら、長音を含んだ言葉を発音する。 ③書き方を確かめ、長音を含んだ言葉を書く。 ④言葉集めをし、紹介し合う。</p>	<p>【関心】長音に関心をもち、拍を確かめながら読んだり、正しく書いたり、言葉集めをしたりしようとしている。 【話聞】姿勢や口形などに気を付けながら、長音の含まれる詩をはっきりとした発音で音読している。 【伝国】長音を含む平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準	
		<学習指導要領との対応>			
6	8	おはなしをたのしみましょう 「たぬきのじてんしゃ」 (読⑦言①) ■場面や人物の様子を想像しながら読むことができる。 ■文中での主述の関係やかぎの使い方を理解することができる。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ:場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国イ(キ):敬体で書かれた文章に慣れること。	①言葉や文のまとまりを考えながら、音読する。 ②場面の様子や人物の行動などを想像しながら読む。 ③おもしろかったところなどを交流し合う。	【関心】物語のおもしろさに関心をもち、読み進めようとしている。 【読む】場面の様子や人物の行動などを想像しながら読んだり、音読したりしている。 【伝国】敬体で書かれた文章を読み、主述の関係やかぎの使い方をとらえている。	
		2	「ちいさいや・ゆ・よ」 (読①言①) ■拗音を含む詩や言葉の読み書きをすることができる。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎伝国イ(イ):音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 ◎伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。	①拗音を含む言葉が出てくる詩を音読する。 ②拍を確かめながら、拗音を含んだ言葉を発音する。 ③書き方を確かめ、拗音を含んだ言葉を書く。 ④言葉集めをし、紹介し合う。	【関心】拗音を含む言葉に関心をもち、読んだり書いたりしようとしている。 【読む】言葉のまとまりに気を付けながら、拗音を含む詩を音読している。 【伝国】拗音を含む言葉を読み書きするとともに、音節と文字の関係に気付いている。
		8	えやしゃしんでたしかめながらよみましょう 「いきもののあし」 (読⑥書②) ■絵や写真と文章とを結び付けながら、内容の大体を読むことができる。 ○書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(2)ウ:身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)イ:時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)オ:文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ウ:事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①語や文のまとまりを考えながら、音読する。 ②絵や写真と文章とを結び付けながら、それぞれの動物の足の特徴や働きを読む。 ③知っていたり調べたりした動物の足の特徴や働きを、教科書の文体をまねて説明する文章を書き、紹介し合う。	【関心】生き物の足の特徴や働きに関心をもち、読み進めたり、調べて紹介したりしようとしている。 【書く】知っていたり調べたりした動物の足の特徴や働きを説明する文章を、文と文の続き方に気を付けて作っている。 【読む】絵や写真と文章とを結び付けながら、それぞれの動物の足の特徴や働きを考え、文章の大体を読んでいる。 【伝国】文中の主述の関係に気付いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	8	<p>おもいだしてかきましょう 「きのうのこと」 (書⑦言①) ■体験したことから題材を選び、簡単な文章を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)イ:経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ◎伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p>	<p>①体験したことを思い出して出し合い、題材を選ぶ。 ②例文などを参考にしながら、簡単な文章を書く。 ③書いたものを読み合う。</p>	<p>【関心】体験したことを思い出して、簡単な文章に書こうとしている。 【書く】言葉や文のつながりを考えて、体験したことを簡単な文章に書いたり、読み返したりしている。 【伝国】主述や助詞、句読点などを正しく使っている。</p>
7	2	<p>「は・を・へ」 (書①言①) ■助詞「は・を・へ」の使い方を理解し、正しく使うことができる。</p> <p>◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ◎伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。</p>	<p>①助詞「は・を・へ」の使い方が分かり、正しく使う。 ②助詞を正しく使い、整った文を作る。</p>	<p>【関心】助詞の使い方に関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】助詞を正しく使い、整った文を作っている。 【伝国】助詞の使い方を理解している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	9	おはなしをたのしくよみましょう 「おおきなかぶ」 「おはなしであそびましょう」 (読⑨) ■楽しみながら、物語を読み進めることができる。 ■好きな場面を劇にしたり、役割音読をしたりするなどして、楽しみながら読むことができる。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○読(2)イ：物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①場面や人物の様子などを想像しながら、読み進める。 ②感想や読み取ったことを友達と交流し合う。 ③場面や人物の様子などが伝わるように、動作化などをしながら工夫して音読する。 ④「おおきなかぶ」で、好きな場面などを出し合う。 ⑤役などを相談して決める。 ⑥劇にしたり役割音読をしたりしながら、物語を楽しむ。	【関心】「おおきな かぶ」の物語のおもしろさに関心をもち、読み進めたり劇化しようとしていたりしている。 【読む】場面や人物の様子などを、想像しながら音読している。 【読む】作品を読んで感じたことなどを交流し合っている 【読む】場面の様子を想像し、劇にしたり役割音読をしたりするなどして、物語を楽しみながら読んでいる。 【伝国】主述の関係をとらえている。
	1	「すきなほんをひらいてみましょう」 (読①) ■図書室の利用のしかたを知り、好きな本を選んで読むことができる。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)オ：読んだ本について、好きなところを紹介すること。	①図書室などの利用のしかたや読書の約束事を知る。 ②関心のある本を選んで読み、読書の幅を広げる。	【関心】図書室の利用を通して読書への関心を深め、読み進めようとしている。 【読む】選んだ本のおもしろさをとらえながら、読み進めている。
	1	たのしくよみましょう 「かぞえた」 (読①) ■言葉のリズムや語感をとらえながら、詩を楽しく読むことができる。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○伝国ウ(イ)：第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①おもしろさをとらえながら、詩を音読する。 ②読み方を工夫して、詩を楽しむ。	【関心】数え歌に関心をもち、楽しみながら読もうとしている。 【読む】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら、リズムよく音読を楽しんでいる。 【伝国】漢数字を読んでいる。
	1	かんじでかきましょう 「かずのかんじ」 (言①) ■漢数字の読み書きをすることができる。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(イ)：第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①漢数字を読んだり書いたりする。 ②ものの数え方を知る。	【関心】漢数字に関心をもち、適切に使おうとしている。 【伝国】正しく漢数字を読んだり、書いたりしている。また、物の種類によって異なる適切な助数詞を使っている。 【伝国】数を表す漢字があることに気付いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	8	<p>「えにつきをかきましょう」 (書⑧) ■順序を押さえて、書きたいことを簡単な文章で書き表すことができる。</p> <p>◎書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。○書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国ウ(イ):第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に相当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①例文を読み、絵日記の書き方や形式についてとらえる。 ②体験したことの中から、書きたいことを選ぶ。 ③絵と文とを結び付けて、絵日記を書く。 ④書いた絵日記を読み返して直したり、読み合って感想などを伝え合ったりする。</p>	<p>【関心】絵日記を書くことに関心をもち、自分の経験を書こうとしている。 【書く】夏休みの出来事から書きたいことを選び、絵と文とを結び付けたり、文と文とのつながりに気を付けたりしながら、絵日記を書いている。 【書く】書いた絵日記を読み返して直したり、読み合って感想などを伝え合ったりしている。 【伝国】主述の関係や、漢数字の使い方、長音などの表記や助詞の使い方、句読点などに注意して書いている。</p>
9	2	<p>しをあじわいましょう 「いるか」 「おさがふねをかきました」 (読②) ■様子などを想像しながら、工夫して音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○伝国イ(イ):音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。</p>	<p>①詩の内容や表現のしかたで、おもしろかったところを話し合う。 ②読み方を工夫して音読する。</p>	<p>【関心】言葉の使い方や描かれている様子のおもしろさに関心をもちながら、詩を読もうとしている。 【読む】様子などが伝わるように、リズムをとりながら工夫して音読している。 【伝国】アクセントによる語の意味の違いや常体と敬体の違いに気付いている。</p>
	3	<p>かんじのへや1 「かんじのできかた」 (言②書①) ■漢字のでき方や使い方をとらえ、正しい筆順で書くことができる。</p> <p>○書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎伝国ウ(イ):学年別漢字配当表の第1学年に相当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①ものの形からできた漢字や印からできた漢字について知る。 ②漢字を含む文を読み書きする。 ③適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字のでき方に関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか確かめたり直したりしている。 【伝国】漢字のでき方を知り、正しく読み書きをしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	10	<p>むかしばなしをよみましょう 「うみのみずはなせしよっぱい」 (言⑧読②) ■場面の様子を想像しながら読み、昔話の世界を楽しむことができる。</p> <p>○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)ウ:場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ◎伝国ア(ア):昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。</p>	<p>①場面の様子や人物の言動を、想像しながら読み取る。 ②好きな場面を選んで、音読する。 ③好きな昔話を読む。</p>	<p>【関心】昔話に関心をもち、「うみのみずはなせしよっぱい」を楽しみながら読もうとしている。 【読む】場面や人物の様子などを想像しながら音読している。 【伝国】「うみのみずはなせしよっぱい」を読んだり、読み聞かせを聞いたりして、お話を楽しむとともに、他の昔話をさがして読んでいる。</p>
	1	<p>「かたかなをみつけましょう」 (言①) ■片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>◎伝国ウ(ア):平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①絵から、片仮名で書く言葉を見つける。 ②片仮名で書く言葉を、読んだり書いたりする。</p>	<p>【関心】片仮名で書き表す言葉に関心をもち、適切に使うとしている。 【伝国】片仮名で書く言葉の種類に気付き、読んだり書いたりしている。</p>
	10	<p>1. しろろ・つたえよう 「わたしのはっけん」 (書⑩) ■身の回りものを観察し、見つけたことが伝わるような文章を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)イ:自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)イ:経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ◎伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国イ(キ):敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや手順、観察のポイントなどをとらえる。 ②身の回りから、観察するものを選び、カードにまとめる。 ③カードを基に、見つけたことや分かったことが伝わるような文章を書いたり、読み返したりする。 ④友達と読み合って、感想を伝え合う。</p>	<p>【関心】見つけたことに関心をもち、分かりやすく書こうとしている。 【書く】様子などが伝わるようにカードに書き出し、それを基に語と語や文と文との続き方に気を付けて文章を書くとともに、文章を読み返したり感想を伝え合ったりしている。 【伝国】句読点の打ち方や、主述の関係に注意して書いている。 【伝国】例文が敬体で書かれていることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	8	<p>2. なぜをたのしもう 「なぜでしょう」 (読⑥書②) ■問いの文と答えの文を見つけ、それらを基に、文章を読み進めることができる。</p> <p>○書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(2)ウ:身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)イ:時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)エ:文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(2)ウ:事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①問いの文と答えの文を見つけて書き出す。 ②それぞれの問いに対する答えを読み取る。 ③「なぜ」と「こたえ」の対応するカードの作り方をとらえて書き、友達と出し合う。</p>	<p>【関心】たまごの白身や鉛筆の例のように身の回りから疑問を見つけ、文章を読み進めようとしている。 【書く】「なぜ」と「答え」のカードを集め、簡単な構成の説明文を、つながりを考えながら書いている。 【読む】事柄ごとに問いと答えの文を書き抜き、それをよりどころに、たまごや鉛筆の疑問に対する答えを読んでいる。 【伝国】問いと答えに使われている言葉に気付いて読んでいる。</p>
-	(8)	<p>◆「月よに」 ■場面の様子や人物の言動を想像しながら、物語のおもしろさを味わうことができる。</p> <p>○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ:場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)オ:文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○読(2)イ:物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○読(2)オ:読んだ本について、好きなところを紹介すること。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①本文を読み、おもしろかったところを発表し合う。 ②好きな場面を楽しみながら音読する。</p>	<p>【関心】「月よに」に描かれている親子ねずみの様子を想像しながら読もうとしている。 【読む】語のまとまりや、言葉の響きなどに気を付けて、描かれている様子を想像しながら音読している。 【読む】三匹の行動とその様子について、想像を広げながら読んでいる。 【読む】読んだ感想を発表している。 【伝国】主述の関係を押さえ、だれがどうしたかをとらえている。</p>

平成27年度版「みんなとまなぶ しょうがっこう こくご」一年下巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	「うみはごきげん」 (読①) ■音読を工夫し、楽しみながら詩を読むことができる。 ◎読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①音読し、様子を考える。 ②擬音や擬人などの表現効果のおもしろさについて考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。	【関心】描かれている様子を楽しみながら詩を読もうとしている。 【読む】描かれている様子や自分が考えたことが伝わるように、工夫して音読している。 【伝国】海を人に見立てている書きぶりに気付いて読んでいる。
	2	みんなでほんをたのしもう 「手ぶくろ」 (読②) ■次はどうなるかを想像しながら、物語を楽しむことができる。 ◎読(1)カ:楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)イ:物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①話の展開を想像しながら、読み聞かせを聞いたり、読み進めたりする。 ②「劇遊び」や「お話かるた」、「お話会」をするなどして、本の世界の楽しみ方を知る。 ③どんな本を読みたいか友達と伝え合ったり、図書館に行つて本を選んだりする。	【関心】手袋の中に、次々に動物が入り込むお話の読み聞かせを聞いて、読書への関心を深めている。 【読む】話の続きを想像しながら、読み聞かせを聞いている。 【伝国】主述の関係を押さえ、だれがどうしたかをとらえて読んでいる。
	8	1. じどう車くらべをしよう 「くらしをまもる車」 (読⑥書②) ■くらしを守る車は、どんな働きや工夫があるのかを、比べながら読むことができる。 ○書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)イ:自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(2)ウ:身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ◎読(1)イ:時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)オ:文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ウ:事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①問いの文と答えの文を見つめる。 ②出てくる車の働きや工夫をカードにまとめる。 ③他のくらしを守る車についても調べ、カードにまとめる。 ④作ったカードを比べ、似ているところや違うところを見つめる。	【関心】「くらしをまもる車」に関心をもち、それらの働きや工夫を読み取ろうとしている。 【書く】調べた働きや工夫を、構成を意識してカードに書いている。 【読む】述べ方の順序に気付き、働きや工夫に注目して読み、調べたことをまとめている。 【伝国】問いと答えに使われている言葉に気付いて読んでいる。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	4	ことばのきまり1 「文をつくろう」 (言①書③) ■主語と述語の基本文型をとらえ、簡単な文を作ることができる。 ○書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○伝国イ(ウ):言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ◎伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①絵から、「何がどうする。」 「何がどんなだ。」といった基本文型をとらえる。 ②絵を見て言葉をつなげ、主述の整った文や文章を作る。	【関心】文の構造に関心を持ち、適切に使おうとしている。 【書く】主述の整ったつながりのある文を書いている。 【伝国】「何がどうする。」 「何がどんなだ。」といった基本文型や主述の関係に気付き、理解している。 【伝国】助詞を使ったり、句点を落とさないで書いたりしている。
	2	かん字のへや1 「かん字のかきはじめ」 (言②) ■漢字の書き始めに着目し、正しい筆順で漢字を書くことができる。 ◎伝国ウ(イ):第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、漢字の書き始めや筆順についてとらえる。 ②示された漢字の書き始めを調べる。 ③新出漢字の練習をする。	【関心】漢字の筆順に関心を持ち、適切に使おうとしている。 【伝国】漢字には、筆順があることをとらえ、書き始めはどこかを調べている。 【伝国】新出漢字の書き順などを確かめながら、正しく読んだり書いたりしている。
	8	2. しらせたいことをはなそう 「わたしのたからもの」 (話聞⑧) ■知らせたいことがよく伝わるよう、内容や順序を考えて話したり、質問したりすることができる。 ◎話聞(1)ア:身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 ◎話聞(1)イ:相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)ウ:姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ:大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○話聞(1)オ:互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)ア:事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ○話聞(2)エ:知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。	①本文を読み、学習のねらいや進め方をとらえる。 ②紹介する宝物を選ぶ。 ③友達に紹介したい内容や理由を書き出し、順序を考えて話す準備をする。 ④発表会をする。	【関心】宝物に関心を持ち、内容や順序を考えながら話そうとしている。 【話聞】身近なことから思い出し、よく伝わるよう内容や順序を考えて、場に合った声の大きさを話したり、尋ねたいことを興味をもって質問したりしている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	3	ことばのいずみ1 「かたかな」 (言③) ■片仮名を正しく読んだり、書いたりすることができる。 ◎伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。 また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	①片仮名で書く言葉を正しく読んだり書いたりする。 ②形の似た片仮名に注意して書く。 ③片仮名で書く言葉の種類をとらえ、身近な物から片仮名で表記する語を書き出す。	【関心】片仮名の書き方に関心をもち、適切に使おうとしている。 【伝国】片仮名で書く言葉の種類をとらえたり、正しく読み書きをしたりしている。
	2	かん字のへや2 「日づけとよう日」 (言②) ■漢字の日付や曜日の読み方を知り、正しく読み書きをすることができる。 ◎伝国ウ(イ)：第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①日付や曜日の読み方を知る。 ②正しく書く。 ③新出漢字の練習をする。	【関心】日付や曜日の漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【伝国】日付や曜日の漢字を正しく読んだり、筆順などを確かめながら書いたりしている。
	6	しをかこう 「ころがうごいたこと」 (書⑥) ■発見したり、びっくりしたりなど、心が強く動いたときのことを、詩を書くことができる。 ◎書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、作者はどんなことに心が強く動いたかをとらえる。 ②身の回りのできごとや経験したことの中から、心が強く動いたことを選び、詩に書く。 ③書いた詩を読み返し、間違いなどを正す。 ④書いた詩を友達と読み合い、良いところなどを伝え合う。	【関心】心が強く動いた経験を基に、感じたことがよく伝わるよう、詩を書こうとしている。 【書く】思ったことやそのときの様子、したことなどを入れるなどの工夫をしたり読み返したりしながら、つながりのある詩を書いている。 【書く】書いた詩を読み合い、その良さなどを交流し合っている。 【伝国】短詩形で表現するための言葉の使い方に気付いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	10	<p>3. こえに出してよう 「はじめは『や!』」 (読⑨話聞①) ■登場人物の言動から、様子を想像しながら読み、音読することができる。</p> <p>○話聞(1)オ:互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ:場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ◎読(1)オ:文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①登場人物の言動の順序をとらえる。 ②登場人物の行動を中心に言動の変化を読み取り、そのときの様子を想像しながら話し合う。 ③登場人物の言動の変化の様子が伝わるよう、工夫して音読する。</p>	<p>【関心】登場人物の言動やその変化の様子に関心をもち、物語を読み進めようとしている。 【話聞】人物の言動から、想像したり考えたりしたことを話し合っている。 【読む】登場人物の言動から、様子やその変化を想像しながら読み、それが伝わるように工夫して音読している。 【読む】登場人物が変化したところを考え、そこで自分が思いうかべたことを出し合っている。 【伝国】主述の関係を押さえ、だれがどうしたかをとらえている。</p>
12	4	<p>どくしょをひろげよう 「どくしょびじゅつかんをつくろう」 (書③読①) ■本のお薦めのところを、題名や作者、一ばん好きな場面の絵などを書いて、紹介することができる。</p> <p>◎書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)エ:紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 ○読(1)カ:楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや手順をとらえる。 ②示された手順や作品例を基に、「どくしょびじゅつかん」の作品を作って、教室などに掲示する。 ③作った作品を見合い、お薦めのところを紹介したり、感想を伝え合ったりする。</p>	<p>【関心】「どくしょびじゅつかん」作りに関心をもち、お薦めの本を紹介しようとしている。 【書く】お薦めの本のどこを取り上げるか決め、題名や場面の絵などを書き出している。 【読む】本のあらすじやおもしろさなどをとらえている。 【伝国】感想を伝えるための言葉を用いて話している。</p>
	1	<p>本とともだち どくしょのへや (読①) ■読書を楽しむことができる。</p> <p>◎読(1)カ:楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。</p>	<p>①本文を読み、紹介された本のおもしろいところをとらえる。 ②読書を楽しむ。</p>	<p>【関心】読書に関心をもち、本を読み進めようとしている。 【読む】紹介された本を選んで読み、おもしろいところなどをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	12	<p>4. おはなしをつくろう 「『音』をさがしておはなしづくり」 (書⑫) ■体や心から聞こえてくる音を探して想像を広げ、お話を作ることができる。</p> <p>○書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)イ:自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)ア:想像したことなどを文章に書くこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(キ):敬体で書かれた文章に慣れること。 ○伝国ウ(ア):平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや進め方をとらえる。 ②体や心から聞こえる音を見つけ、それを使って文を作る。 ③作った文に短い言葉を加えて、短いお話を作る。 ④友達と相談しながら、お話をつなげ、続きを考える。 ⑤できたお話を読み合い、良かったところなどを伝え合う。</p>	<p>【関心】擬音語・擬態語を基にしたお話作りに関心を持ち、創作活動を楽しもうとしている。 【書く】体や心から聞こえる音について、想像したことを基に簡単なお話を書くとともに、読み返して語や文のつながりがより良くなるよう書き直している。 【書く】書いたお話を読み合い、感想を伝え合っている。 【伝国】片仮名や助詞、撥音などを使うとともに、音やようすを表す言葉や場面転換で用いる言葉、句読点の打ち方に気付けて書いている。 【伝国】例文が敬体で書かれていることに気付いている。</p>
1	2	<p>ことばでつたえよう 「つたわったかな」 (話聞②) ■伝えることをしっかりと聞き、次の相手に正しく伝えることができる。</p> <p>○話聞(1)ウ:姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ:大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、「伝言ゲーム」のやり方をとらえる。 ②話し方や聞き方などに気を付けながら、「伝言ゲーム」をする。 ③どんなことに気を付ければうまく伝わるかを考える。</p>	<p>【関心】「伝言ゲーム」に関心を持ち、友達と楽しく話したり聞いたりしている。 【話聞】はっきりとした発音で分かりやすく伝えたり、大事なことを落とさないようにしながら聞いたりしている。 【伝国】伝達の手段としての「言葉」を意識して取り組んでいる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	8	<p>手がみをかこう「はがきをかこう」 (書⑧) ■相手意識をもち、簡単な手紙の形式にしたがって、はがきを書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。 ◎書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)オ:伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 ○伝国イ(エ):長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①本文を読み、はがきの書き方をとらえる。 ②どんなことを書いて、どんな思いを伝えたいかを出し合う。 ③お世話になっている上級生などへのお礼の気持ちを、はがきに書く。 ④書いたはがきを読み返し、間違いや気が付いたところを直してから出す。</p>	<p>【関心】お世話になっている上級生にお礼のはがきを書こうとしている。 【書く】簡単なはがきの書き方を知り、伝えたいことを決め、文と文のつながりに注意し、間違いなどに気を付けてお礼の気持ちを書いている。 【書く】書いたはがきを読み合っ、感想を伝え合っている。 【伝国】句読点の打ち方や助詞の使い方、文中における主語・述語の関係などに注意している。</p>
	3	<p>ことばのきまり2 「ことばをくぎる」 (言①書②) ■句読点の使い方や働きを理解し、正しく使うことができる。 ■読みやすくするための漢字の使い方を理解する。</p> <p>○書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎伝国イ(オ):句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p>	<p>①区切りを付けて読みやすくするために、句読点の使い方を理解する。 ②句読点を適切に使って、分かりやすい文や意味が違う文を書く。 ③平仮名を漢字にすると、読みやすくなることを理解する。</p>	<p>【関心】文の分かりやすさに関心をもち、句読点を適切に使ったり、平仮名を漢字にしたりしようとしている。 【書く】句読点などを適切に使い、読みやすい文を書いている。 【伝国】句読点の使い方や働き、平仮名を漢字で書くことの効果を理解している。</p>
	2	<p>かん字のへや3 「かん字のよみかた」 (言②) ■漢字には、いろいろな読み方があることを、とらえることができる。</p> <p>◎伝国ウ(イ):第1学年においては、学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①例示された漢字のいろいろな読み方や使い方から、漢字には読み方がいくつかあるものがあることをとらえる。 ②漢字の読み方に気を付けながら、例文を読む。 ③新出漢字の練習をする。</p>	<p>【関心】漢字の読み方に対する関心を深め、適切に使い、言葉を増やしていこうとしている。 【伝国】漢字のいろいろな読み方を理解している。 【伝国】新出漢字の書き順などを確かめながら、正しく読んだり書いたりしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	7	<p>5. じゅんじょをかんがえておはなししよう 「まめ」 (読⑤話聞②) ■順序に気を付けながら、どのようにまめが育つかを読み、説明することができる。</p> <p>○話聞(1)イ:相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)イ:時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)エ:文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(2)ウ:事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ウ):言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①写真と文章とを対応させながら、まめが育つ順序をとらえる。 ②文章中に出てくる「まめ」という言葉に印を付け、どこから新しいまめになるのかをとらえる。 ③あさがおなど、別の植物の育ち方を、順序を表す言葉を使って説明する。</p>	<p>【関心】植物の成長に関心をもち、その順序をとらえながら読み進めたり、説明したりしようとしている。 【話聞】植物の育ち方を、順序を表す言葉を使って、分かりやすく説明している。 【読む】まめの育ち方を、順序や語のまとまりに気を付けながら読み、大事な言葉を書き抜いている。 【伝国】様々なたねである「まめ」が、「まめ」という総称で説明されていることに気付いている。 【伝国】文の中の主語と述語の関係に気付いている。</p>
2	3	<p>ことばであそぼう 「こえに出してたのしもう」 (読①話聞①言①) ■詩の音読や早口言葉といった言葉遊びを通して、語句の響きや語感を楽しむことができる。</p> <p>○話聞(1)ウ:姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎読(1)ア:語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア:本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①繰り返しなどの詩のおもしろさをとらえる。 ②「言葉の大変身」のやり方をとらえ、ゲームを楽しむ。</p>	<p>【関心】詩のおもしろさや言葉遊びに関心をもち、楽しみながら学習しようとしている。 【話聞】口形や声の速さ、言葉の区切り方などに注意して、はっきりとした発言で話している。 【読む】言葉遊びの詩を、言葉のまとまりや響き方に気を付けて、楽しんで音読している。 【伝国】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら読んでいる。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	10	<p>6. わかるようにつたえよう 「ようふくのきかた」 (書⑦話聞③) ■順序が分かるように書き、伝え合うことができる。</p> <p>◎話聞(1)ア:身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 ◎話聞(1)イ:相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)ウ:姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ:大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○書(1)ア:経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)イ:自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ:語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ:文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ:書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)イ:経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ○書(2)ウ:身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ○伝国イ(ア):言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(カ):文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国イ(キ):敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや進め方をとらえる。 ②どの洋服の着方を説明するかを決め、カードに書き出す。 ③カードを基に、順序が分かるように言葉をつないで文章を書く。 ④話す練習をする。 ⑤発表会をし、学習をふり返る。</p>	<p>【関心】洋服の着方に関心をもち、その順序が分かるように書いたり、伝え合ったりしようとしている。 【話聞】着方の順序が分かるよう、はっきりとした声で話している。 【話聞】着方を確かめたり質問を考えたりしながら、興味をもって聞いている。 【書く】着方の順序が分かるようカードに書き出し、それを基に、主述の整ったつながりのある文章を書き、読み返したり感想を伝え合ったりしている。 【伝国】物事を順序立てて伝える言葉に気付き、使っている。 【伝国】例文が敬体を使っていることに気付いている。</p>
	3	<p>ことばのいづみ2 「まとめてよぶことば」 (言③) ■「意味が広い」「意味が狭い」の関係が分かり、適切に使うことができる。</p> <p>◎伝国イ(ウ):言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>①下位と上位の概念の言葉を考え、その関係についてとらえる。 ②まとめてよぶ言葉を考え、「意味が広い」「意味が狭い」の関係をとらえる。</p>	<p>【関心】まとめてよぶ言葉に関心をもち、適切に使おうとしている。 【伝国】下位語と上位語の概念をとらえ、適切に使っている。</p>
	2	<p>かん字のへや4 「にているかん字」 (言②) ■似ている漢字の違いに気付き、字形や筆順に気を付けながら、漢字を書くことができる。</p> <p>◎伝国ウ(イ):学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①例示された漢字で似ているところや筆順をとらえる。 ②字形や筆順に気を付けながら、似ている漢字を書く。</p>	<p>【関心】似ている漢字に関心をもち、その違いをとらえながら適切に使おうとしている。 【伝国】字形や筆順に気を付けて、似ている漢字を正しく書いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	10	<p>7. めだかのぼうけんのようすをかんがえよう 「めだかのぼうけん」 (読⑦書③) ■季節ごとのめだかの様子を読み、まとめることができる。</p> <p>○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)ウ：身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①季節が分かる言葉を見つけ、めだかの様子などをカードに書き出す。 ②カードを基に、文章を三つのまとまりに分ける。 ③題名の「めだかのぼうけん」についてまとめる。</p>	<p>【関心】季節ごとのめだかの居場所や暮らしの様子に関心を持ち、読み進めようとしている。 【書く】季節に沿って書かれているめだかの様子をカードに書き出したり、どんな冒険だったか振り返って田んぼとのつながりを考えたりしながらまとめ、文章を読み返したり、読み合ったりしている。 【読む】季節が分かる言葉を手掛かりに、その時のめだかの居場所や生活の様子を読んだり、段落のまとまりや内容の大体をとらえたりして、大事な文を書き抜いたり、確かめて考えたことをまとめたりしている。 【伝国】季節を特定する言葉に注目し、全文の中で時間の順序を表していることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	14	<p>8. やくわりをきめてよもう 「ろくべえまってるよ」 (読⑫話聞②) ■登場人物の言動や思いを読み、音読をすることができる。 ■役割や、どんな方法で表現するのかなどを友達と相談して決めることができる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ◎読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○読(2)イ：物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①ろくべえのために、だれが何をしたかを、順序よく読む。 ②人物の心やその変化と理由をとらえる。 ③読み取ってきたことを基に、音読劇や人形劇などにして表現し合う。</p>	<p>【関心】深い穴に落ちたろくべえに対するかんちゃんたちの言動や思いに関心を持ち、読み進めたり役割音読などをしたりしようとしている。 【話聞】友達と相談し合いながら、役割などを決めている。 【読む】みんながろくべえのためにどんなことをしてどうなったのか、出来事の順番を整理してとらえている。 【読む】場面ごとにみんながどんなことを思っていたか、確かめながら読んでいく。 【読む】みんなの思いがいちばん変わったと考えたところを選び、音読している。 【読む】読み取ったことを基に、場面に分けたり役割を分担したりして演じている。 【伝国】言葉を繰り返して使う表現があることに気付き、その効果をとらえている。 【伝国】片仮名言語を読んでいく。</p>
	2	<p>これからのあなたへ 「うれしかった」 (読②) ■作者の思いを想像しながら音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、 「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。</p>	<p>①表現から読み取った作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。</p>	<p>【関心】作者の思いを想像し、自分の考えをもちながら読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】拗音・促音などに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
-	-	<p>◆「おんちよるちよる」 ■場面の様子を想像しながら読み、昔話の世界を楽しむことができる。</p> <p>○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○伝国ア(ア)：昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。</p>	<p>①場面の様子や人物の言動を、想像しながら読み取る。 ②好きな場面を選んで、音読する。 ③好きな昔話を読む。</p>	<p>【関心】昔話の世界に関心を持ち、楽しみながら読もうとしている。 【読む】場面や人物の様子などを想像しながら読んでいる。 【伝国】昔話を読んだり、読み聞かせを聞いたりして楽しみ、その感想を伝え合っている。</p>

※276時間中、257時間を各単元に配当。残る19時間は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」など、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

領域	話聞	書	読	伝国	合計
時数	35	77	91	54	257